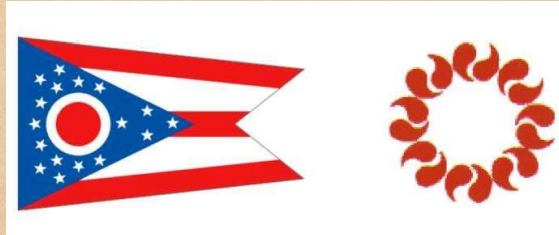


埼玉県・オハイオ州  
グローバルスピーカープログラム  
(OSGS)  
最終報告



2022年度後期（第4期）2023年1月～5月  
菅野ますみ

# 目次

1. 最終報告の目的
2. OSGSプログラムについて
3. ホフステード理論（集団主義と個人主義）
4. 3つのプレゼンテーション活動
5. 埼玉親善大使の活動
6. フィンドレー大学の生徒との交流
7. 最後に

# 1. 最終報告の目的

2023年5月28日の報告会をもって、2022年度後期の埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム（OSGS）が終了しました。

本報告書では、各活動を振り返り、学びと今後への抱負をまとめます。ここまでの具体的な活動内容は、中間報告①②にて報告しておりますので、合わせてそちらもご覧ください。

## 2. OSGSプログラムについて

姉妹州である米国オハイオ州との姉妹提携30周年を記念して、新たにオンラインを活用したプログラム（略名：OSGSプログラム：Ohio Saitama Global Speaker Program）です。

オハイオ州のフィンドレー大学とリアルタイムで結び、

「**英語で発信する力**」を日本にしながら身に着けることを目指した参加型**オンラインプログラム**です。全10回の講義及び報告会、任命式・修了式もすべてオンラインで実施されました。

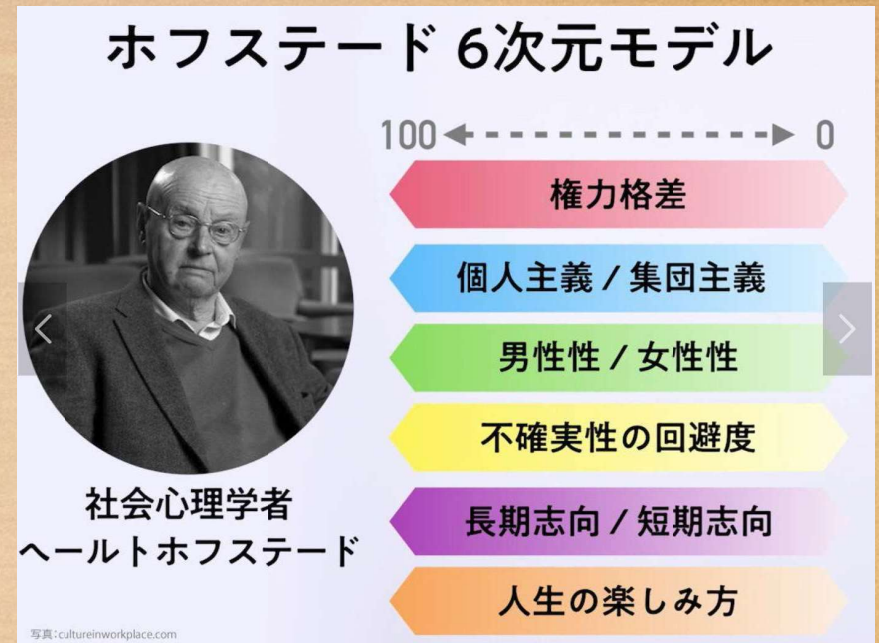
参加者同士（OSGS参加者、フィンドレー大学の学生）のコミュニケーションもSNSツールやZOOM会議システムで行われました。

オンラインでかつ主に夜8時からの活動であったため、仕事・家庭との両立が可能となりました。今まで、時間的・経済的に難しかったこともオンライン形式が採用されることで、可能性が広がっています。

### 3. ホフステード理論（個人主義と集団主義）

OSGSのテーマは、オランダのホフステード博士による6次元モデルです。6次元モデルとは、データをもとに国民文化の違いを相対的に比較できる6つの指標です。（右表参照）






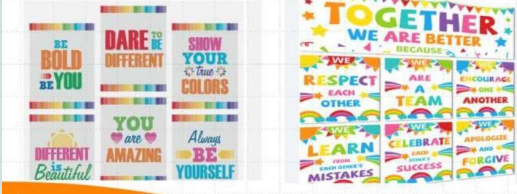

今年は、「個人主義/集団主義」とりあげ、学びを深めました。その中で、①学校②知らない人③家族に分類し、日米の学生たちで発表をまとめました。



# 学び

日本文化に注目する時、集団主義の側面が強いと思っていましたが、フィンドレー大学の学生との意見交換と通して、個人主義的な側面もあることに気づきました。

また、お互いの具体例を提示しあうことで、文化の差を実体験することができたので、直接のコミュニケーションの大切さを再認識しました。

<p><b>Collectivism vs. Individualism for School</b> </p> <p>Posters in classroom(I/C)</p> 	<p><b>Collectivism vs. Individualism for School</b> </p> <p>Appearance(C/I)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>clothes / bag / shoes (C/I) Most schools set school uniforms There are various kinds of choice</li> <li>hair (C) black hair is only choice at most schools</li> </ul> 
<p><b>Collectivism vs. Individualism for School</b> </p> <p>Posters in classrooms (I/C)</p> 	<p><b>Collectivism vs. Individualism for School</b> </p> <p>Appearance(I)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dress Code (I) <ul style="list-style-type: none"> <li>Most schools have dress codes, but not uniforms</li> <li>Many schools are not strict on enforcing the dress code</li> </ul> </li> <li>Hair (I) <ul style="list-style-type: none"> <li>Very few restrictions</li> </ul> </li> </ul> <p><small>Students may wear the following items:</small></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Sunglasses</li> <li>Head coverings to include: hats, hoods, bandanas, and sweatbands.</li> <li>Short shorts/skirts (shorts/skirts are to be no shorter than mid thigh)</li> <li>Shorts/tops without sleeves (including, but not limited to tank tops and halter tops); all tops must have at least a three inch sleeve below the shoulder seam - the width of your shoulders must be covered</li> <li>Spandex-like or athletic shorts</li> <li>See through shirts or tops (including "net" shirts and/or tops)</li> <li>Shirts or clothing that exposes the stomach, back, or sides.</li> <li>Low cut tops</li> <li>Proper undergarments must be worn</li> </ol> <p><small>Students must:</small></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Wear shoes at all times.</li> <li>Wear all shirts and pants at waist level (even while seated) - no undergarments to be visible at any time.</li> </ol>

## 4.3つのプレゼンテーション

本活動の中で、3つのプレゼンテーション活動を行いました。

①フィンドレー大学のシンポジウムにおいて、「日米の個人主義と集団主義」のプレゼンテーション

(対象：フィンドレー大学学生)

②講義の中で、埼玉親善大使の活動として「わが街埼玉」紹介のプレゼンテーション

(対象：フィンドレー関係者)

③OSGS成果発表会でのプレゼンテーション

(対象：埼玉県民、および本活動に関心のある方)

 University of Findlay

All for One and One for ALL: A Closer Look at  
Collectivism and Individualism in Japan and the  
United States

Rachell Clark, Masumi Kanno, Mariko Katagiri, Desiree Smith, Audrey Spaeth, Haruka Terada

Sponsors: Dr. Hiro Kawamura, Greg Mott

# 学び

①	<p>オンラインでの初めてのプレゼンテーションでした。タイミング、話し方等、練習を通して新しい気づきがありました。</p> <p>また、フィンドレー大学の学生のプレゼンテーションを通して、英語でのプレゼンテーションの方法を学びました。</p>	<p>フィンドレー大学で行われているリアルなシンポジウムに参加しているのですが、画面上は相手の反応が全く見えない点に難しさを感じました。</p>
②	<p>改めて自分の住んでいる街について調べる良いきっかけを持ってました。アピールすべき点を決めて、それをストーリーにして組み立てることは大変良い経験になりました。</p>	<p>適切な写真を見つけ出し、プレゼンテーションに効果的に挿入することに難しさを感じました。</p>
③	<p>設定された時間内に、分かりやすく伝えるための方法を3人で検討しました。一人だと偏る視点も、3人で検証することによって、シンプルで分かりやすい資料を作成することができました。</p>	<p>質疑応答の想定ができなかったため、質問者の要求に沿った回答であったかが分かりませんでした。質問者の詳細「OSGS検討者、県関係者、教育関係者など」の設定が分かると答えやすかったと思います。</p>



# 5. 埼玉親善大使の活動

- ①埼玉親善大使として、2日間の活動（1，ふかや花園アウトレット、ヤサイな仲間たちファーム、深谷テラスパーク）（2，狭山湖、山口観音、ベルーナドーム）を行い、インスタグラムアカウントで活動報告を行いました。
- ②フィンドレー大学の関係者に向けて、3，「わが街埼玉」として朝霞市の良さを、四季の移り変わりを通してプレゼンテーションしました。

③ヤサイな仲間たちファーム 秩父鉄道 ふかや花園駅より徒歩3分  
• コンセプトは「野菜にときめく、好きになる!みんなの笑顔を育むファーム」



左) 収穫体験農園  
中央) おすすめ調理方法と野菜  
右) ファーム関係者の皆様

①狭山湖(山口貯水池) 西部狭山線 西武球場前駅より徒歩15分  
• 所沢市と入間市の境界に位置する



左) 施設案内  
真ん中) 狭山湖  
右) 石原慎太郎氏の石碑



# 学び

1	<p>深谷テラスパーク、ヤサイな仲間たちファームでは、埼玉親善大使であることを伝えて、お話をさせていただいたので、いろいろなお話をさせていただきました。</p>	<p>深谷市、埼玉県、秩父鉄道、キューピー、深谷農協が協力して、地域の活性化に取り組んでいることがよくわかりました。 埼玉県には農地がたくさん残されており、首都圏の食を支えている側面にも触れることができました。</p>
2	<p>野球の賑わいのすぐ横に自然と歴史的建物が あり、埼玉県の観光の多様性を再認識しました。</p>	<p>東京都の水源地としての埼玉の役割を初めて知りました。森に囲まれた狭山湖は、四季の移り変わりを身近に感じることができる素晴らしい場所でした。</p>
3	<p>プレゼンテーションを作成するにあたり、朝霞市のことを調べました。自分の住む町の魅力に触れることができた貴重な経験をする ことができました。</p>	<p>たくさんの質問を寄せていただき、フィンドレー大学の関係者の方の記憶の中に朝霞市を残すことができたと思います。 姉妹都市の友好関係は、一人一人のつながりから始まることを体験することができました。</p>

## 6. フィンドレー大学の学生との交流

フィンドレー大学の学生とは次の形式で交流しました。

①ペア学生との「個人主義と集団主義」における意見交換。

形式：ZOOM会議、LINEのSNS交流、授業時間内の意見交換

②わが街埼玉のプレゼンテーション内の交流

③フィンドレー大学学生の日本訪問時の再会

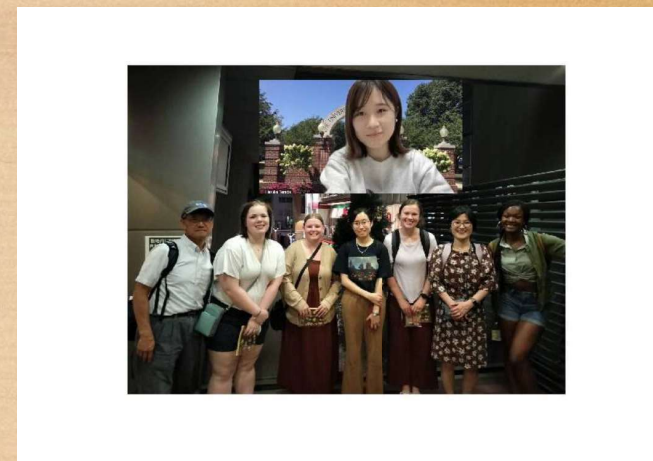
# 学び

時差の関係でミーティングを設定する点に少し苦労しましたが、それ以外の点では問題なく交流することができました。

彼女たちから、プレゼンテーションスキルを始め、授業における英語使用の実践を学びました。

また、プレゼンテーション準備の中では、アメリカの大学生のリアルな学生ライフや家族関係などいろいろな話をする機会を持つことができました。

共同のプレゼンテーションが終わった時には、国籍を超えた強い仲間意識が芽生えていて、お互いの健闘を称えあいました。



## 7. 最後に

5か月はあっという間に終わってしまいました。英語力、他のメンバーとの年齢差等、始まる前は不安に思っていたことも、始まってしまえば杞憂でした。

何よりも英語で学ぶことの楽しさを知りました。英語を操れば、国の垣根を越えて様々の考え方を知ることができるという、英語を学ぶ利点を再認識しました。英語学習への意欲がさらに高まっています。

この経験を、教師として生徒たちに伝えていきたいと思います。

また、いつかめぐってくるチャンスのために英語の学習を継続していきたいと思います。

そして、このプログラムを通して知り合えた皆さんとのつながりを大切にして、埼玉県の国際交流に今後も協力していきたいと思います。

